様式1

令和4年度　山梨県立盲学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針	自己実現・社会的自立ができる力を養い、健康で心豊かな人間を育成する。

山梨県立盲学校校長　　白倉　明美

本年度の重点目標	
	1　連続性を重視した学びの充実
	2　一人一人に応じた指導の充実
	3　自立と社会参加に向けた取組の充実
	4　視覚障害教育相談の充実

達成度		
	A	ほぼ達成できた。（8割以上）
	B	概ね達成できた。（6割以上）
	C	不十分である。（4割以上）
	D	達成できなかった。（4割以下）

評価		
	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自　己　評　価

番号	評価項目（本年度の重点目標）	具体的方策（本年度の重点目標）	方策の評価指標（本年度の重点目標）	自己評価結果（年度末評価（12月21日現在））	達成度（年度末評価（12月21日現在））	成果と次年度への課題・改善策（年度末評価（12月21日現在））
1	発達段階に応じた、確かな学力を育てる指導の実践	個別の教育支援計画及び個別の指導計画のもと、やまなしスタンダードを活用した授業実践の充実	保護者との合意形成状況 学校評価アンケート	集団授業の課題を整理し、幼児生の興味・関心に合わせた個別の指導計画を作成した。ケース会議等をふまえた共通理解をもって学部として指導にあたった。ICT支援員と連携し、ICTを活用した学校教育の推進が図られた。保護者等と連携しスキル向上と定着に取り組んだ。各教科・科目間の連続性を持たせ、段階的な指導を心がけた。生徒の実態に合わせて触察教材を活用した。	B	発展的・応用的な学習内容の修得に一部課題のある生徒がいる。個々の生徒の進路希望を実現するための学習の質を担保し、教職員の授業力を向上させる必要がある。
		触察教材の充実と積極的な活用を通した言語活動の充実	触察教材リストの作成			
	発達段階に応じた、将来を見据えたキャリア教育の充実	学校生活全般におけるスキルの向上と、達成感の積み重ねによる自己有用感の獲得	キャリアパスポートの作成及び活用状況 生徒対象学校評価アンケート	学習成果の発表の機会や学校行事の主体的な運営等を通して、幼児生の自己有用感を高めることができた。進学希望先のオープンキャンパスへの参加を促し、外部機関と連携しながらキャリア形成や進路学習を推進することができた。現場実習のフィードバックから、実習や就労に向けての心構えや普段からの準備等について理解を深めることができた。		生徒のキャリア形成や卒業後の進路選択について、生徒と保護者、学校との間で早い段階から綿密な意見交換を行い、卒業後の進路に対する考え方の共有を図る必要がある。
		進学を含めた個々のニーズに応じた進路の開拓	情報収集量 開拓状況 現場実習の状況			
2	障害特性に応じた、ICT機器を積極的に活用した授業の改善	ICT機器を積極的に活用した授業改善と指導の充実	授業実践の状況 職員の自己評価	ICTの活用で生徒の生活や学習の困難さの改善がみられるとともに、指導を通して教職員のICT活用力が向上した。リモート参加による教職員の研修会参加の機会が確保できた。	A	ICTの教育活動への有効な活用方法を検討する。デジタル教科書の指導・活用力のさらなる向上が求められる。
	障害特性に応じた、専門家を積極的に活用した指導の実践	月16時間の視能訓練士及び歩行訓練士との連携を生かした指導の充実と授業改善	専門家と連携後の幼児児童生徒の評価・改善状況	視能訓練士、PT、OT等の専門家の指導・助言を得ながら、学習や生活の指導に生かした。		専門家活用の実態について、担任だけでなく学部等で共有する必要がある。
	教職員の人間性や創造性を高め、効果的な教育活動が展開できる職場環境づくりの推進	教職員が各自の業務を適切に管理し、定時退校日における全教職員による定時退校の実現	実施状況 職員の自己評価	月2回の完全定時退庁日を定着し、教職員のタイムマネジメントに対する意識が高まった。		週休日や休日に出勤せざるを得ない教職員が散見される。引き続き業務改善を継続し、働き方改革を推進していく。
3	社会性の涵養、自主性の伸長を目指す交流及び共同学習の充実	学校間交流、地域交流、居住地校交流及び共同学習の充実	事前打ち合わせの充実 学校評価アンケート 推進協議会	甲府西幼稚園、池田小学校、西中学、甲府城西高校、甲府西高校、リモートによる沖縄盲学校等との間で多くの交流活動が実施できた。地域交流では、池田地区自治会と連携し学校周辺の点字ブロック点検と清掃活動を行い、点字ブロック設備の改善に結びつけることができた。	B	学校間交流においては、相互の連絡体制や実施にあたっての狙いを明確に定め、自校教職員と幼児生への早期周知と事前学習を行うことが重要である。コロナ禍という制約もあるが、交流行事の実施そのものが目的化している。協働的な学びの補完という視点に立った活動の計画・実施が求められる。
		個々の実態に沿った各種専門家の活用	専門家と連携後の幼児児童生徒の評価・改善状況			
	社会の状況に対応し、適切に活動する自己管理能力の育成	感染症等に対して適切に行動しながら、心身の健康を保持増進できる望ましい生活習慣の形成	実施状況 学校評価アンケート	外部講師による特別講座や、校外実習、施設見学、修学旅行、走ろう歩こう記録会、スキー教室等の学校行事を行った。これらの活動を原因とした新型コロナウィルスをはじめとする感染症への罹患事例はなかった。六星祭や現場実習等において、生徒主体の活動と継続的なフィードバックを行い自己有用感を高めることができた。		科学的な知見に基づいた感染症対策を継続し、子どもの学びを止めない教育活動を行っていく。幼児生数と学級数が限られているため、協働的な学びの実践に大きな課題がある。学校間交流の改善とICTのさらなる活用による工夫が求められる。
		学校の諸活動のなかで自己を理解し、他者と協働しながら日常生活を適切に送る力の育成	実施状況 学校評価アンケート			
4	視覚障害教育相談の推進	Eye愛ひとみ相談支援センターの啓発と相談の充実	実施状況 学校評価アンケート	利用者へのアンケートでは満足度が高かった。利用者のニーズに応じた柔軟た相談体制を取りながら、教材を充実させることができた。授業や学校行事の取り組みを随時学校ブログで発信し、視覚支援教育への理解と相談支援体制の周知に努めた。医療・福祉・教育・行政等との連携強化に向けて、各機関と協力して「甲斐眼ネット」を立ち上げた。	A	相談ニーズが増加して人員体制が厳しく体制整備を継続的に県に要望していく。小児視覚障害児の早期発見・介入・教育に関して小児眼科の全国的な組織等と連携して、本県での実現に向けて検討する。
		ホームページなどによる外部への情報発信の充実	実施状況 学校評価アンケート			
		医療・福祉・行政・教育関係機関との連携の強化	連携の状況 学校評価アンケート 医療との連携状況			

学校関係者評価

実施日　（令和 5年2月16日）

番号	評価	意見・要望等
1	4	・連続した学びの充実のなかでも全ての学部においてICT活用を実践的に進めていることは高く評価すべき点である。なかでも交流の中での活用は沖縄、海外など目標2、3にもつながるひろがりのある取り組みとなっていた。 ・触察教材の充実も長く盲学校で取り組んいるが、触察ルームを拝見し、先生方が効果的に児童・生徒の理解を深めるために準備され、授業で活用している様子がわかった。 ・進路支援を個別のニーズに応じて行っている点も評価される。 ・”触って見る””触って遊ぶ”機会が多い視覚障害の方々にとって、この数年のコロナ禍の感染対策は大変だったかもしれない。先生方も相当気を遣われたと思う。今後はどのように学び方を戻していくのか、あるいは変えていくのか、試行錯誤が続くかと思うが、現場の先生方にはがんばって頂きたい。 ・個別の指導計画の作成、ICT支援員との連携などを成果につなげるなど、先生方のご苦労が感じられた。 ・キャリア形成や進路学習の推進が達成できて良かった。 ・視覚に障害のある児童・生徒に応じた工夫や配慮された指導・教育が行われていると感じた。
2	4	・デジタル教科書の活用の様子を他校でも拝見する機会が増えているが、リモートの研修が増えているとよく耳にするので、先生方の無理のないなかで活用の幅を広げていっていただければと思う。盛んな取り組みが伝わった。 ・児童・生徒の活発な活動と実績が素晴らしい。難しい問題もあるが働き方改革の中で継続を。 ・ICT機器の積極的な活用は今後もっと進んでいくものと思われる。その分、眼の負担にもなり得るので、眼科的には今まで以上に対策を考えるべきだと思った。 ・ICT機器を巧みに活用しており、授業等に幅広く反映させていて良かった。 ・定時退庁日が定着し、タイムマネジメントもあるが、先生方の健康管理等にも生かされればと思う。 ・月2回の完全定時退庁日の設定は少ないのではないか。定時退庁が普通になるよう努力してほしい。
3	4	・校外との交流、地域での取り組みも注目すべき報告だった。対面活動が戻る中で、リモートの活動も盛んなので忙しいことと思うが、「学校間でのねらいを明確に」という点は次にもつながる良い視点であると思う。両校の特色が活きる交流が続くことを願う。 ・「児童・生徒自身が、成果や学びを実感できる」という視点を大切にしている点がよく伝わった。 ・いよいよ新型コロナ感染症の扱い方が変化するので、控えていた交流が再開されるのでないかと思うとよろこばしい。部活などは地域の学校と一緒にというのはやはり難しいのか。（ ・コロナ禍の中、交流等の実施に際し、先生方のご努力、創意工夫が感じられた。 ・他校、外部団体等との交流が多くの成果をあげていて良かった。 ・いろいろな機関や他の学校と交流を持つことはよいことなので今後も積極的に続けてほしい。
4	4	・他県とは違って、センター的機能の充実、相談体制の手厚さもあってか、盲学校への入学がうえている。単一障害の生徒の話もあったが、小児視覚障害者へのサポート体制への充実が進んできtたためと肯定的に評価してよいと考える。課題を全国的組織からも学びながら取り組まれることを、今後も期待している。 ・25人クラス制になたとしても、弱視やその他相談が必要なお子さんは別枠での対応が必要で、ニーズは高まっている。是非職員を増員していただきたい。人数が増えてもすぐに対応できるというわけではないと思うので長いスパンで増員してほしい。 ・相談者に寄添い、解決に向け努力されていることがよく理解できた。 ・人員体制が厳しい中で、情報発信やいろいろなニーズへの対応をよく行っていると思う。

留意点　（1）重点目標と評価項目については，各学校の現状と課題に基づき，実情に合わせて重点化し，設定する。
（2）学校関係者評価については，年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し，評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは，最終回の学校評価委員会等を開催し，学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。